

人參

泉鏡太郎

青空文庫

京師けいしの張廣號ちやうくわうがうは、人參にんじんの大問屋おほとんやで、聞きこえた老鋪しにせ。銀座ぎんざで一番いちばん、と云いふづつしりしたものである。

一日あるひの事ことで、十八九ひとりの一人せうねんの少年うま、馬うまに打乗うちのり、荷鞍にぐらに着つけた皮袋かはぶくろに、銀貨ぎんくわをざく／＼と鳴ならして來きて、店頭みせさきへ翻然ひらりと降おり、さて人參にんじんを買かはうと云いふ。

馬うまに銀袋ぎんたいを積つんで來きたくらゐ、人參にんじんの價値あたひは思おもふべしである。が、一寸素人ちよつとしろうとには相場さうばが分わからぬ。ひそかに心覺こころおぼえに因よると、我朝わがてうにても以前いぜんから、孝行かうかうな娘むすめが苦界くがいに沈しづんで、浮川竹うきはたけの流ながれの身みと成なるのは、大概たいがい人參にんじんで、高尾たかを、薄雲うすぐも、芳野よしのなど云いふ絶世ぜつせいの美人びじんの身代金みのしろぎん、すなは、人參にんじん一いちりやうの値あたひは、名高なだかい遊女おいらん一人いちにんに相當さうたうするのであるから、蓋し容易けだなわけのものではない。

何なんと！ 處ところで其その少年せうねんは、人參にんじん百ひやく兩りやうを買かはうと云いふ。果はたせる哉かな、銀貨ぎんくわを馬うまに積つんで居ゐるから、金慣かねなれた旦那だんな、物ものに動どうぜぬ番頭ばんとう、生意氣盛なまいきさかりの小僧こぞうどもまで、ホツと云いつて目めを驚おどろかして、天てんから降ふつて來きたやうに、低頭ていとう平身へいしんして、

「へえ／＼、へえ。」

扱さて、芬ぶんと薰かをりの高たかい抽斗ひきだしから、高尾たかを、薄雲うすぐもと云いふ一粒選ひとつぶえりの處ところを出だして、ずらり

と並べて見せると、件の少年鷹揚に視て居たが、

「お店の方。」

「はッ。」

「實は何です。私の主人と言ひますのが、身分柄にも似合はない、せゝッこましい人でしてね。恚うして買つて参ります品物が氣に入らないと、甚いんですぜ、そりや、踏

んだり、蹴つたり、ポカ／＼でさ。我又不善擇人參可否。此の通り、お銀に

間違は無いんですから、何うでせう、一ツ人參を澤山持つて、一所に宿まで來て

下さいますせんか。主人に選らせりや、いさくさなし、私を助けるんです、何うでせう。」

一議に及ばず、旦那以爲然が、何分大枚の代物であるから、分別隨一

と云ふ手代が、此の使を承る。と旦那も十分念を入れて、途中よく氣をつけて、他人に

は指もさゝせるな。これだけの人參、一人觸つて一舐めしても大抵な病人は助か

る。で、それだけ代物が減る、合點か。

もう、其處等に如才はござりません、とお手代。こゝで荷鞍へ、銀袋と人參の大

包を振分けに、少年がゆたりと乗り、手代は、裾短な羽織の紐をしやんと構へ

て、空高き長安の大都を行く。

やがて東華門に至ると、こゝに、一、大旅店、築地ホテルと言ふ構へがある。主人は此處に、と少年の導くまゝに、階子を上つて、其の手代は二階の一室、表通りの見晴と云ふのへ通る。

他愛なく頭が下つたと云ふのは、中年の一個美髯の紳士、眉におのづから品位のあるのが、寶石を鏤めた藍の頭中で、悠然と頤の其の髯を抜いて居た。

「お手代、大儀ぢや。」

「はッ、初めましてお目通りを仕ります。へえ、今度はまた格別の御注文仰せつけられました、難有い仕合せにござります。へえ、へえ、早速これへ持参いたしました人參、一應御覽下さりますやう、へえ。」

以前の少年も手傳つて、これから包を解いて、人參を卓子一杯に積上げる。異香室内に満つ——で、尊さが思遣られる。

處へ、忽ち、門外、からくと車の音、ヒーンと馬の嘶く聲。

正午頃の大酒店、秋冷かに寂とした中へ、此の騒々しさ。病人の主、フト窓から下を覗くと、急に眉を顰めて、

「童子。」

と少年を呼んだのは豪いが、些と慌しさうな言語で、

「これ、何が来た。それ、な、病氣ぢやに因つてお目には懸られぬと言ふのぢや。」

「畏りました。」

トン／＼と階子を靴で、靜に、……しかし少年は急いで下りる。

主人聲を密めて、手代に、

「いや、些と其のな、商業の取引上、俺に貸金のあるものが參つたで。恥しい

わ、は、は。」

と笑つて、

「二階へ上らせては些と面倒、と云ふのが、恚うして人參を買ふ處を見られると、都

合が悪いので、金子を渡さぬわけに行かぬぢや。……は、は、大目に見やれさ。」と仰向

けに椅子に凭る。

「いえ、もう、誰方様も其處がお懸引でいらつしやります、へえ。」と眞面目で居る。

少年が引返した。が、大に弱つた顔をした、「内證で婦人などお戯れで、それ

で座敷へ通せぬのであらう。其の儀なら尚の事、断てとおつしやる。旅店の若い衆も押

返すやうにお留め申しては居りますが、手足を掉つてお肯入れなく、靴で蹴飛ばしてい

らツしやいます。」

「困つたの。」

と爰に於て、色を變へて、手代に向ひ、一倍低聲で、

「些と縁續きのものだけに、益々以つて然う捻ぢられては難かしい。……何しろ此處へ通しては成らぬで。俺が下室へ行つて逢つて來よう。が、つむじ曲りぢや、強つて上つて來ぬとも限らぬ。念のため、此處に、竹行李がある。ソレ、錠も下りるわ。早く其の人參を中へ入れて、お主、天川屋と云ふ處で、のつしと腰を掛けて番をして居てくれい。宜いか、宜いかな。」

で、病人とあつて、蹠跟と樓を下る。

「旦那、お危うござります。」と少年は其の後へ、腰を抱くやうな手つきで従ふ。戸外が近いから、二階に残つた手代の耳にもよく聞える。一つ二つ下室で、言葉を交した、と思ふと、怒鳴る、喚く、果は、どたくの取組合。何處へなだれ懸つたやら、がらん、がらんと云ふ響。

やがて、ホテルは寂然として、遠くで馬の嘶くのが聞える。窓の外を赤蜻蛉。竹行李に腰を掛けて、端坐した人參お手代、端坐だけに尚ほ間が抜ける。

「はてな。」とはじめて氣が着いて、主人が渡して行つた鍵をガツチリ、狼狽眼うろたへまなこで開いて見ると、這は如何。箱の底から、階下の廊下が見通しであつた。行李は、元來の底なしで、今のどたばたの音に紛れて、見事、天井を切つて、人參を抜いたもの。

いや、其の時の手代の様子が、井戸に落した音のやうで、ポカンとしたものであつた、と云ふ。さて、油斷は成らぬ世の中。

次手にとぼけたのがある。江戸の掏兒は、人の下駄を脱がすと聞くが、唐人だけに穿はいて居る靴を脱がされて、剩へ屋根へ上げられた、と云ふのが一つ。

むかし唐土長安のハイカラ、新しい買たての靴で、キュツクなどやり、嬉うれしさうに、爪先を見て、ニヤクと町を通る。

一人ついと行逢ひ、袖を捲いて、長く揖し、靴どのが手を、ひしと握つて、

「やア、お珍しい。何うも、しばらく、何とも御不沙汰、大將何うです、御景氣は。」と立續ける。靴を着けたるもの、固より見も知らぬ男であるから、ものをも言はず呆あきれて立つたは其の筈で。

揖するもの、くわつと成つて、

「笑かしやがらあ。新らしい靴を穿いたと思つて、異う俺つ達を他人にしやがる。へん、

止よしてくんねえ。」

と言いふが否いなや、靴くつどのが被かぶつた帽子ぼうしを引ひん捻ねちつて取とつたと思おもふと、片側かたがは町の瓦屋根かはらやねの上うへへ、スポンと投なげて、

「状さまあ見みやがれ。」と後あとをも見みず、肩かたを怒いからして、肱ひぢを張はつて、すたく去さる。

新靴しんぐつは、きよとんとして、

「はア、醉ゑひ漢どれや。」と眩つぶやいて、變へんな顔かほして屋根やねを見みて居ゐる。此この姿すがたが、例れいの唐たうじん人じんだけ
に面おも白しろい。

處ところへ又また、通とほりかゝつたものがある。

「もし、飛とんだ目めにお逢あひなさいましたね。今いまの奴やつは何なんて惡いたづら戲げをするんだらう、途とほ法ふも
ない。いや、しかし、烈はげしい日に中ちゆう、尊そん頭とう。」

と記かいてある。(尊そん頭とう)は言いひ得えて妙めうなり。

「尊そん頭とうが堪たまりますまい。何な故ぜ屋根やねへお上あがんなすつてお帽子ぼうしをお取とりなさいません。」
「ぢやてて、貴方あんたはん、梯子はしごがおへんよつて、どないにもあきまへん。」

と言いふ。

其その人ひと曰はく、

「それだつて、小原女が賣りに來るのを待つて居られもしますまい。可うがす、肩をお貸し申しませう。これへ乗つて、廂へかゝつて、大屋根へお上んなさい。」
 着靴者感謝。

「おい來た。」と氣輕に踞む、其の男の肩へ、づかと遣ると、忽ち怒つた。

「串 戲ぢやない。汝、靴が惜けりや、俺だつて衣服が惜いや。いくら新しい靴だつて泥がついてら、氣をつけねえか。」と、けぐめを啖はず。

着靴者慙謝、とある。これは慙謝は當然である。

其處で薄汚れた襪に成つて、肩から廂へ、大屋根へ這上つて、二百十日と云ふ形で、やつとこな、と帽子を掴むと、下の奴は甜瓜かじりに靴を掴んで、一目散。人込の中へまぎれて候。

明治四十四年五月

青空文庫情報

底本：「鏡花全集 卷二十七」岩波書店

1942（昭和17）年10月20日第1刷発行

1988（昭和63）年11月2日第3刷発行

※題名の下にあつた年代の注を、最後に移しました。

※表題は底本では、「人參《にんじん》」とルビがついています。

入力：門田裕志

校正：川山隆

2011年8月6日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

人參
泉鏡太郎

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>